

環境省地球環境局地球温暖化対策課市場メカニズム室 御中

○件名：オフセット・クレジット（J-VER）制度における対象プロジェクト種類の追加に対する意見

○住所： 〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-7-3 半蔵門ウッドフィールド 2F

○氏名（会社名／部署名／担当者名）： 気候ネットワーク東京事務所 桃井貴子

○職業：環境 NGO

○電話番号： 03-3263-9210

○ファックス番号： 03-3263-9463

○電子メールアドレス： momoi@kikonet.org

○意見内容：

「熱源設備の更新によるヒートポンプの導入」について

1. 「ヒートポンプの導入」では、その冷媒として現在多くの機器で HFC を使用しており、使用時漏洩が非常に大きく、廃棄時回収も実効が全くあがっていない。「ヒートポンプの導入」にあたっては、CO<sub>2</sub> 排出削減のみならず、HFC の排出増加も考慮したうえでの真の温室効果ガス削減量を算出すべきである。HFC 等冷媒について後年の排出可能性も考慮したモニタリング、保守的なクレジット発行が必要である。（後年の排出の際にはクレジット補填義務を持たせることや、HFC 漏えい予想量を超える CO<sub>2</sub> 削減のみをクレジット発行するなど）

2. 「条件 5：プロジェクトの採算性がない、又は他の選択肢と比べて採算性が低いこと。（例えば、投資回収年数が 3 年以上であること）」について、投資回収年数が 3 年では必ずしも「採算性が低い」とは言えず、より厳しい設定として真に追加性があることを求めるべきである。（例えば、IRR が一定値以上であることも条件とするなど。業界慣行をみたらうえで、個別企業の投資意思決定におけるクレジット売却益の重要性など）

3. モニタリングのパラメータとして、「メーカーの作成するカタログ値に記載される COP（APF）を利用する」とあるが、最近メーカーが作成する COP や APF のカタログ値は信頼性に欠け、実使用時の効率から遠く乖離しているとの指摘もあるから採用するべきではない。

「空調設備の圧縮機の更新」について

4. 「空調設備の圧縮機の更新」では、空調設備の冷媒として HFC を採用している場

合がほとんどで、使用時漏洩が非常に大きく、廃棄時回収も実効が全くあがっていない。圧縮機の更新で省エネ効率が高まれば冷媒量も増量されていることが懸念される。よって、HFC等冷媒について後年の排出可能性も考慮したモニタリングが必要である。同上